

## 408. 素ナル標数ノ体ノ上ノ多元環ニツイテ. III

中山 正 (阪大)

第1, 第2ノ報告(87号, 384, 88号, 387)ノ結果ヲ  
更ニ精シクシタイ。例ノ如ク  $K$ ヲ標数  $p$ ノ体,  $\mathcal{O}$ ヲ  $\mathcal{O}$ ノ上  
ノ  $p$ -Potenzindexノ多元環類トスル。然ラバ

$\mathcal{O}$ ハ巡回多元体ノ直積ヲ代表サレ、然モソノ際ソノ  
各々ノ巡回多元体ハ Index ト Exponent が相等シク,

且ツ  $\mathcal{O}$  の Exponent が各  $\mathcal{O}_i$  の巡回多元体 Exponent の中ノ最大ナルモノト一致スルヤウニスルコトが出来ル。

マタ更ニ  $(K^{p^e} : K)$  が有限  $p^m$  ナラバ、コノ際ノ巡回多元体ノ数ヲ高々  $m$  個ニスルコトが出来ル。(線ヲ引イテ部分ガ精シクナツタ所デアリマス)。

証明ノタメ先ツ  $K$  カラ適當ニ元ノ集合  $\{a_{\tau}\}$  ヲ取出シ (番号ヲツケテ可附番個トイフワケデアナイ)、ソノ中カラ任意ノ有限個列ヘバ  $S$  個取り出シタトキ

$$K(\sqrt[p]{a_{\tau_1}}, \sqrt[p]{a_{\tau_2}}, \dots, \sqrt[p]{a_{\tau_S}})$$

ガ常ニ  $K$  對シ  $p^S$  次デアル様ニスル。

コレニ“注意”サレタイノハコレヲシテオケバ、例ヘバ  $K'$  ヲ  $K = a_1$  以外ノ  $a_{\tau}$  ( $\tau \neq 1$ ) ノ  $p$  中乗根ヲイクツカ添加シテ体トシタトキ  $a_1$  ノアル  $p$  中乗根ガ  $K' =$  對スル次数ハ  $K =$  對スルソレニ相等シイトイフコトデアル。

上ノ定理ヲ証明スルニハ  $\mathcal{O}$  が

$$\left\{ \begin{array}{l} D_1 \times D_2 \times \dots \times D_t; \quad D_i = (a_{\tau_i}, Z_i, S_i), \\ \text{但シ } D_i \text{ ハソノ Index ト Exponent が相等シイ様} \\ \text{ニ巡回多元体デアリ、ソノ Exponent 1 最高ノモノ} \\ \text{ガ } \mathcal{O} \text{ ノソレニ等シイ。マタ } a_{\tau_i} \text{ ハ上ノ } \{a_{\tau}\} \text{ ノ} \\ \text{中ノ元デアリ、} i \neq j \text{ ナラバ } a_{\tau_i} \neq a_{\tau_j}. \end{array} \right.$$

ナル如キ直積ヲ代表サレルコトヲ云ヘバヨイ。

$\mathcal{O}$  の Exponent ヲ  $p^e$  トスル。  $e=1$  ノトキニハコノコトハ報告 II. ノ証明カラ容易ニワカル。Induktion = ヨルタメ  $p^e$  ヨリ低イ Exponent ノモノニハ主張ガステ

= 成立スルトシヨウ。

先ツ上ノ“注意”カラ第一ノ報告(384)ノ10-11頁ニ於イテ  $\alpha_1$  ノ中デ  $K(\alpha_2, \dots, \alpha_t) =$  含まレル最低ノモノヲ  $\bar{a}$ ,  $K =$  フクマレル最低ノモノヲ  $a$ , ト區別シタノハ無駄ナ(且ツ結果ヲ悪クスル) 手数デアツタ。始メカラ  $\alpha_1, \alpha_2, \dots$  トシテ相異ナル  $a_c$  ノ  $p$  中乗根ヲトツテオキサヘスレバ  $\bar{a}$  ガソノマ、  $a =$  ナツタワケデアル。コノ注意ト II ノ証明トカラ. 容易ニワカル如ク  $\mathcal{O}$  ハトモカク

$$\left\{ \begin{array}{l} A_1 \times A_2 \times \dots \times A_L; \quad A_i = (a_{c_i}, z_i, s_i), \\ \text{コノ } z_i \text{ ハ高々 } p^e \text{ 次ノ巡回拡大デアリ, マタ } i \neq j \\ \text{ナラバ } a_{c_i} \neq a_{c_j} \end{array} \right.$$

ナル直積デアラハサレル。(  $p^e$  ハ  $\mathcal{O}$  ノ Exponent. コノ  $z_i$  ノ從ツテ  $A_i$  ノ次数ヲ高々  $p^e =$  ナシ得タノガ上, 注意ノ結果デアル!)

$A_i$  ノ次数が高々  $p^e$  デアルカラ Exponent モ然リ。  
 $A_i$  ノ中ニハ Exponent ガ  $p^e$  ナルモノガイフツカアル。  
ソレヲ例ヘバ  $A_1, A_2, \dots, A_L$  トシ ( $1 \leq l \leq L$ ) 他ハ Exponent ガ實際  $p^e$  ヨリホトスル。

$A_1, \dots, A_L$  ノ次数が高々  $p^e$  デ Exponent ガ  $p^e$  デアルカラ, 次数モ Index モ  $p^e$  デ 多元体 デナケレバナラナイ。

更ニ残りノ  $A_{L+1} \times \dots \times A_L$  ハ Exponent ガ  $p^e$  ヨリホトナ、ガカラ我々ノ假定カラ

$$A_{k+1} \times \dots \times A_l \sim B_1 \times B_2 \times \dots \times B_h,$$

但し  $B_j$  は  $B_j = (a_{\sigma_j}, Z'_j, S'_j)$  ナル形ノ多元体ヲ然モソ、Index ハ Exponent = 等シク、ソノ中最高ノ  $\epsilon_j$  が直積自身ノソレ ( $< p^e$ ) = 等シイ、マタ勿論  $a_{\sigma_j}$  ハ  $\{a_{\tau}\}$  ノ中カラ取出サレテ居リ、 $j \neq i$  ナラバ  $a_{\sigma_j} \neq a_{\sigma_i}$ .

トナシ得ル。

而シテコノ  $B_j$  = 使ツタ  $a_{\sigma_j}$  ノ中デ、上ノ  $A_1, \dots, A_k$  = ツタツタ  $a_{\tau_1}, \dots, a_{\tau_k}$  ノドレカトモ致スルモノヲ例ヘバ  $a_{\sigma_1}, a_{\sigma_2}, \dots, a_{\sigma_g}$  デアルトシテ差支ヘナイ ( $0 \leq g \leq h, h$ ), 更ニ  $a_{\tau_1} = a_{\sigma_1}, \dots, a_{\tau_g} = a_{\sigma_g}$  デアルトシテモカマハナイ。コレ等、 $j = 1, 2, \dots, g$  = 對シテ  $A_j \times B_j$  ヲ考ヘル。  $A_j$  ノ Exponent ハ  $p^e$ ,  $B_j$  ノソレハソレヨリ小。依ツテ積ノソレハ丁度  $p^e$  デアル。

然ルニ  $K(a_{\tau_j}, p^e \text{ 乗根})$  ナル体ハ両因子ノ分解体ダカラ直積ノソレデアアル。ヨツテ Exponent が  $p^e$  ナルコトヲ考ヘレバ Index = Exponent =  $p^e$  ナルコトがワカル、マタ II ノ補助定理カラソノ類ハ

$$A_j \times B_j \sim (a_{\tau_j}, Z_j^*, S_j^*)$$

ヲ表ハサレル、コト =  $(a_{\tau_j}, Z_j^*, S_j^*)$  ハ Index  $\epsilon$  Exponent  $\epsilon$   $p^e$  ナル巡回多元体デアアル。コレヲ  $A_j^*$  トオリ。

然ラバモトノ類  $\mathcal{A}$  ハ

$$A_1^* \times \cdots \times A_g^* \times A_{g+1} \times \cdots \times A_n \times B_{g+1} \times \cdots \times B_n$$

ナル直積ヲ表ハサレル、然モコノ表ハシ方ガ我々ノ要求ヲ  
充スコトハ上ノ作り方カラ容易ニワカル。

依ツテ定理ガ Induktion ヲ一般ニ成立スル。